

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

2005 年 10 月号 (No.258)

目 次

《巻頭言》

医薬品情報に想うこと..... 2

森田 清 (第一製薬株式会社 取締役社長)

《最近の話題》

アミノ酸の起源と医薬品などへの利用 (その1)..... 4

《お知らせ》

JAPIC「医療用医薬品集」更新情報・2005年10月版インストール版の発行 /

JAPIC 特別講演会のお知らせ / 第123回 薬事研究会開催のお知らせ 7

《図書館だより No.184》 11

《9月の情報提供一覧》 14

《巻頭言》



医薬品情報に想うこと

第一製薬株式会社 取締役社長

森田 清 (*Morita Kiyoshi*)

(JAPIC 理事)

先頃、臨床試験情報の登録と公開に関する当社内の取り組み方針について報告を受けた。これは臨床試験の透明性を確保するとともに、医療関係者および患者の方々への情報提供を図ろうとするもので、国際製薬団体連合会（IFPMA）を中心に米国研究製薬工業協会（PhRMA）、欧州製薬団体連合会（EFPIA）、日本製薬工業協会（JPMA、製薬協）の3極主要製薬団体にて合意され本年1月に示された共同指針に沿った行動であり、社会的責任を果たすうえで有意義なものとする。この共同指針の動機の一つとして医学雑誌編集者国際委員会の臨床試験の登録に関する宣言がある。この宣言に臨床試験成績、すなわち臨床的エビデンスの実地診療に対する重要性が述べられている。つまり情報により実地診療が影響を受けることをもがたっている。

いうまでもなく医薬品はその製品にかかわる情報があつてこそ、その価値がある。このことは「医薬品情報提供のあり方に関する懇談会」の最終報告（平成13年）に「医薬品は、それぞれがどんなに有効性の高い医薬品であっても、適切に使用されるための情報が備わっていなければ、医療に貢献することができない。医薬品は情報と一体となつてはじめてその目的を達成できるものである」と端的に示されている。

製薬企業は、医療現場のニーズに適合した優れた新薬を創出することが使命である。それに加えて使命として重要なことは、開発時のみならず製品の上市後も適正使用のために必要な新しい情報を生産することであり、それを医療現場に提供することである。この情報は臨床的エビデンスのみならず、基礎研究により得られる成績も含まれるであろう。また医療現場からの情報を収集し、評価することも当然、大事な使命である。こうしたことに対して継続的に力を注ぐことにより、その医薬品の病態等に応じた使い方が次第に確立され、医療現場における価値を高めることになり、ひいてはその医薬品のライフサイクルの延長につながるものとする。情報の生産・提供・収集・評価を継続的に行うことはヒト・モノ・カネにわたる大変多くの経営資源を投入する必要がある。また医療現場の医師、薬剤師、看護師をはじめとする皆様方やアカデミアの研究者の方々の多大なご協力があつてこそ成り立つものである。優れた医薬品が長い寿命を得ているのはこうしたことの積み重ねの結果であつて、上市して漫然と座していればよいというものではない。また特許が切れたから、先発権が切れたから、こうした努力をしなくてよいということではなく、引き続き努力を重ねていく責務がある。この間の事情が充分に関係者に理解されることを期待している。

本年4月からの改正薬事法の施行により、医薬品の品質や安全性に関する企業側の責務が明確になった。先に述べた医療現場からの情報の収集や評価、さらには情報の提供といった業務において今まで以上に緻密性、迅速性が求められることになる。当社の学術・信頼性保証部門に訊いてみると、JAPICのさまざまなサービスを適宜活用し、業務の適切化を図っているとのことである。こうしたサービスのなかには近年始められたものもあり、その意義の高さから業務のフレームに早速取り込んだといった経緯もあるようである。

冒頭で述べた臨床試験の登録と公開に関し、JAPICでは昨年来、製薬協と積極的に協働し、まずは登録システムをタイムリーに立ち上げている。国内で実施する治験をはじめとする臨床試験に関する情報を日本語で提供できることは意義深いものといえよう。当社も本システムを活用させていただくこととしている。英語での掲載も考慮されているようであり、さらに臨床試験の結果についても掲載可能となるようである。またIFPMAの検索サイトとの接続も構想されているとのことで、意義の一層の高まりが期待される。JAPICの首藤理事長はこのシステムの留意点を的確に把握されたうえで、その拡張性といった点も展望されておられる。本システムの健全な発展を期待したい。

企業は環境変化に機敏に対応していかなければならない。このことは常々考えてきているところであるが、最近とくにこの重要性を感じている。組織の責任ある方々は常に考えておられることであろう。JAPICのサービス群の経過をなぞり、新しい行動を見ると、JAPICが環境変化に機敏に対応し、潜在ニーズを浮き上がらせるべく努力していることが窺われるように思われる。またこうした努力が収支バランス面での改善に結実してきているのではないだろうか。

製薬企業を取り巻く環境の変化は今後さらに激しいことは想像に難くない。ダーウィンによって示された進化論における自然選択説は、環境への適切な適応能力獲得の重要性を示しているのであろうが、適応の原動力は、偶然の変異の積み重ねなのか、あるいは積極的な変異の結果であるのか、現在の学説はこのどちらにウェイトを置いているのかは知らない。いずれにしろ、われわれは必然的な適応を図らなければならない。一方、医薬品にかかわる情報の重要性はさらに増してくるものと思われる。行政側も安全性に関わる部分をはじめ医薬品にかかわる情報に関するさまざまな施策を展開しつつある。JAPICの将来を取り巻く環境の変化も30余年の今までの歴史のなかでの変化とは速度や質の面で異なるものとなるのかもしれない。

医薬品情報に携わるJAPICの使命の重要性が増すものと思われる。環境変化の兆しを巧みに捉え、一層意義深い存在となられることを期待したい。



《最近の話題》

アミノ酸の起源と医薬品などへの利用（その1）

アミノ酸ブームといわれている。アミノ酸の入った製品が出回っており、それらの宣伝文句に「アミノ酸はヒトの体を作っている成分」なので「体のためになる」というものが多い。確かに、アミノ酸はヒトのみならず、あらゆる生命体の構成成分であり、生命体にとって重要な物質であることは知れわたっている。しかしながらなぜ重要なのか、と問われると答えに困る。同様に、われわれの生命体は一番最初にどのようにして作られたのか？という問いになると、さらに答えは難しくなる。本シリーズでは、アミノ酸の起源から始まり、アミノ酸の医薬品等への利用に関し、下記のテーマごとに逐次述べていきたい。

- (1) 生命の起源物質としてのアミノ酸（2005年10月号）
- (2) アミノ酸類の医薬品
- (3) ペプチド類の医薬品
- (4) アミノ酸関与バイオ医薬品
- (5) アミノ酸含有サプリメントなど

(1) 生命の起源物質としてのアミノ酸

少しハラハラしていたが、本年8月9日、日本人宇宙飛行士（野口聡一氏）が乗ったスペースシャトル「ディスカバリー」が無事帰還した。大成功にも拘わらず、米国の宇宙開発計画も見直されるとのことであるが、われわれの興味の一つは、宇宙に生物が住んでいたのか？今も住んでいるのか？の探求にある。

関連して、昨年（2004年）の1月、米国航空宇宙局（NASA）が発射した火星探査車「オポチュニティ」は火星に着陸した。着陸地点の岩石を顕微鏡カメラやX線分光計などにより分析した結果、大昔、海を思わせるような大量の水が液体状態で存在していた可能性がある、と発表された。これにより、これまでも考えられていたように、大昔、火星にも生命が存在していたかもしれないとする夢が蘇ってきた。ここで、有機化合物の発見でもあれば、と期待が高まるが、残念ながらその源となる化合物の片鱗すら見つからなかった。

しかし、ここで諦めるわけにはいかない。今後、宇宙探検が進んで、アミノ酸などの存在が確認できれば、生命の起源の謎が少しは解けてくるかもしれない。NASAは本年8月12日、新たな火星無人探査機「マーズ・リコナサンス・オービター」を打ち上げた。来年3月に火星に到達予定になっている。また、わが国でも2003年に打ち上げた小惑星探査機「はやぶさ」が本年11月に、世界で初めて小惑星の砂を取り、地球に持ち帰ることになっている。これらの結果が楽しみである。

わが地球に目を転じてみよう。地球は46億年前に誕生したといわれる。また、地球上

の生命はおよそ 40 億年から 35 億年前、原始地球の海で発生したと考えられている。これに関して、今から約 50 年くらい前から、生命の起源についての科学的な研究が活発に行われるようになった。その結果、いくつかの謎が少しずつ紐解かれてきた。¹⁾

一つは、地球上の一番最初の生命の源は有機化合物（炭素化合物）であることが明らかになってきた。しかし、その有機化合物は地球自身の中で生成したのか？どこからやって来たのか？隕石や彗星によって宇宙からやって来たのか？などいまだに定かな裏づけの証拠がない。その意味からも、火星においても生命がいるとなると興味がつきない。

これまでのところ、地球の中からであるにせよ、外からであるにせよ生命の基本物質である有機化合物はわれわれの太陽系の惑星には存在していたとする考えは定着している。

そこで、35 億年も前の原始地球の状態で、どうして炭素化合物（有機化合物）が生成したのであろうとの疑問が湧いてくる。それを実証しようとして、原始地球に近い条件のもとで、炭素化合物の合成実験が試みられた。

その最も有名な実験は 1953 年および 1955 年に発表された米国のミラーが考案した火花放電による実験である。メタン、アンモニア、水をガス状にし、これに火花放電という過激な条件（雷を連想していただきたい）で処理すると、別表に示すようにグリシン、アラニンのようなアミノ酸やギ酸、酢酸のような有機酸が合成されるという事実が発見された。

これに刺激されて、さまざまな角度から同様な実験が行われた。フォックスは、一つの連続的な操作で簡単なガス状物質からアミノ酸を経由して“プロテノイド”（ポリペプチド様化合物：蛋白質様化合物）も合成できることを見出した。同じく、米国のオローヤポナンペルマは原始宇宙の条件でアンモニアと青酸からアデニンやグアニンといった核酸塩基化合物も合成されることを見出した。

原始地球は海であったといわれる。その海はアミノ酸に満ちたものであったか、核酸に満ちた海であったか、それとも両者からなる海であったかは定かでない。また、アミノ酸が先か、核酸が先か、どちらが生命の起源のきっかけになったかはわからない。しかし、どちらも生命を構成する基幹物質であることには、疑問がない。

さらに、原始地球の状態を想像してアミノ酸を高温で加熱処理すると、アミノ酸分子同士がどんどん結合して、ポリペプチド様化合物（プロテノイド）ができることを、原田、フォックスが見出した。彼らは、このプロテノイドを蛋白質のモデルと考え、これがさらに集合して、組織化され、原始細胞の起源のきっかけになったのでは、と推論している。

このように、メタン、アンモニアのような極めて小さな簡単な化合物から、アミノ酸などができ、次いでそれらが化学反応により、大きな分子の化合物になる。それらがまた化学変化して蛋白質様物質に成長し、さらに原始細胞にまで進化する過程を化学進化と呼んでいる。この化学進化説は多くの研究者のより受け入れられている。

しかし、化学進化によってできてきた高分子有機化合物（蛋白質様物質）から最初の原始細胞がどのようにしてできたかの過程（生物進化）は依然として謎である。これ以外に

もまだまだ謎が多い。その一つに、光学活性の問題がある。地球上のほとんどの生物を構成しているアミノ酸は L 型のアミノ酸である。ごく稀に、D 型アミノ酸も存在するが、これら光学活性の原因もほとんどわかっていない²⁾。このように多くの解明すべきことが山積しているが、アミノ酸が生命の起源物質としてもっとも有力な化合物として考えることには異論がない。生命の歴史、生命の起源から見ても、アミノ酸の存在は極めて大きい。

表 化合物の生成量 (モル × 10⁵)

	火花放電	無声放電	N ₂ 気流中放電
グリシン	63 (2.1) *	80 (0.46) *	14.2 (0.48) *
アラニン	34	9	1.0
サルコシン (N-メチルグリシン)	5	86	1.5
-アラニン	15	4	7.0
-アミノ酪酸	5	1	-
N-メチルアラニン	1	12.5	-
アスパラギン酸	0.4	0.2	0.3
グルタミン酸	0.6	0.5	0.5
イミノジ酢酸	5.5	0.3	3.9
イミノ酢酸 - プロピオン酸	1.5	-	-
ギ酸	233	149	135
酢酸	15.2	135	41
プロピオン酸	12.6	19	22
グリコール酸	56	28	32
乳酸	31	4.3	1.5
-ヒドロキシ酪酸	5	1	-
コハク酸	3.8	-	2
尿素	2	-	2
メチル尿素	1.5	-	0.5
上記化合物の全生成量	15%	13%	8%

*装置に入れたメタンの炭素量に基づいて算出したグリシンのパーセント。

参考書

- 1) J.ケオシアン著, 原田 馨, 松本和男訳「生命の起源」共立出版 1969
- 2) 左右田健次「D アミノ酸と生命の誕生」, ファルマシア 41 (9) 821, 2005

(JAPIC NEWS 編集委員会 : 上田 智子、松本 和男)



お知らせ

JAPIC「医療用医薬品集」更新情報・

JAPIC 医療用医薬品集 2005 年 10 月版インストール版の発行のお知らせ

本年 9 月に発刊の“JAPIC「医療用医薬品集」2006”に申し込みハガキを添付させていただきますました標記サービスをいよいよ開始いたします。

《JAPIC「医療用医薬品集」更新情報》

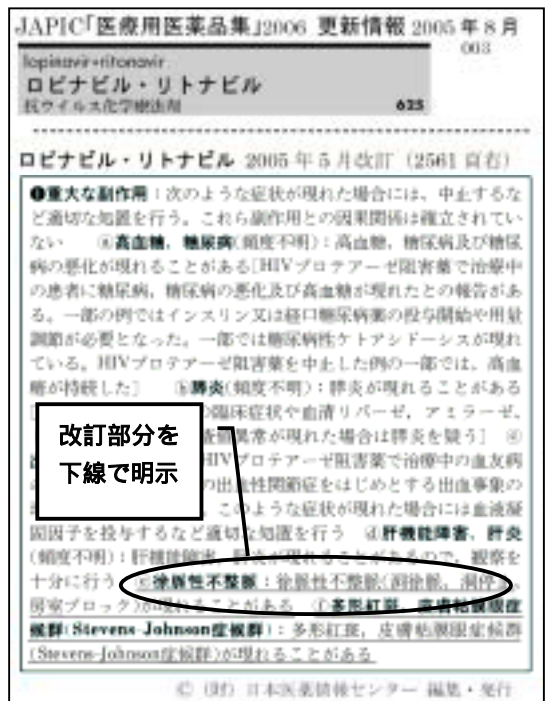
JAPIC では添付文書の更新情報(新薬情報・重要な改訂情報)の提供を 9 月末より毎月行います。重要と思われる改訂部分を含む箇所のみを印刷し、JAPIC「医療用医薬品集」2006 の該当ページに貼り付けてご利用いただけるよう作成いたしましたるようになります。この機会にぜひお申し込み下さい(申し込みハガキまたは直接 JAPIC までご連絡下さい)。

〔提供対象医薬品〕

- ・国内の**新成分医薬品**および**更新された製品**で【**効能効果**】、【**用法用量**】、【**警告**】、【**禁忌**】、【**原則禁忌**】、【**併用禁忌**】、【**重大な副作用**】の変更があったもの。

〔記載内容〕(右サンプルイメージ参照)

- ・**医薬品集項目名**(一般名)
 - ・**改訂情報**：改訂箇所および改訂部分に下線
 - ・JAPIC「医療用医薬品集」2006 該当ページ
 - 〔**特長・価格**〕
 - ・貼り付けやすいシール付き
 - ・次版発刊まで毎月末に提供いたします。
 - ・1部 3,600 円
- (2006 年 6 月分まで提供。税・送料込)



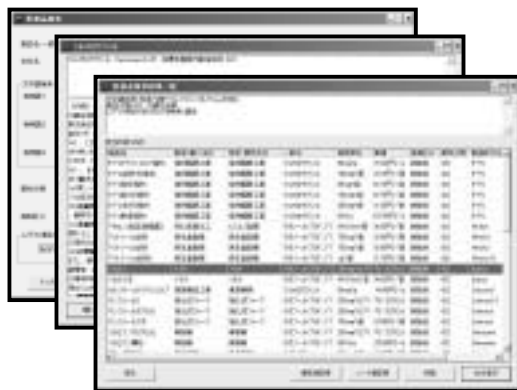
《JAPIC 医療用医薬品集 2005 年 10 月版インストール版》

JAPIC「医療用医薬品集」2006 の付録 CD-ROM の機能強化版として JAPIC 医療用医薬品集 2005 年 10 月版インストール版を 10 月末に発売いたします。付録版と同様に 医療用医薬品集本文情報、薬剤識別コード情報、薬価情報を搭載し、書籍では不可能な 文中語検索、規制や剤形等からの検索(例：処方箋医薬品に該当する医薬品)、識

別コードからの検索を可能にしております。更に Win-Mac 両対応のパソコンフルインストールタイプですので、使用する際に CD-ROM を不要とし、検索スピードの早さがより実感できるようになりました。更に検索テーブルの充実をはかり、検索面が強化されました。

また、機能面につきましては院内医薬品集作成をサポートする院内採用品登録・採用品本文テキストデータ一括書きだし機能を追加しております。

更に常に最新のデータをお届けするため、年 4 回（1 月・4 月・7 月・10 月）発売いたします。お得な年間 4 回セットも有りますので是非この機会にご購入下さい。（綴じ込みハガキまたは直接 JAPIC までご連絡下さい）



〔収載データ〕

医療薬添付文書データ・識別コードデータ・薬価データ

2005 年 9 月末までの JAPIC 入手医療薬添付文書を収載。

新規項目として、2005 年 9 月 16 日薬価収載新規成分を追加する予定です。

〔特長・価格〕

文中語検索・規制や剤形等からの検索・識別コードからの検索ができ、早い検索と精密な検索を可能にしております。

価格各版 15,000 円（税・送料込）/ 枚、年間 4 回分セット 25,000 円（税・送料込）/ 枚。また、複数台使用の場合は使用許諾が必要です。価格については別途ご相談ください。

動作環境（予告無く変更する場合があります）

	Windows	Macintosh
対応 OS	Windows98SE , Me , 2000 Professional , XP Professional , XP Home Edition	MacOS 9.2(CarbonLib 1.6 以上) , MacOS X(10.1 ~ 10.3)
CPU	Pentium 266MHz 以上	PowerPC G3 以上
HDD 空き領域 / メモリ	500MB 以上 / 256MB 以上	500MB 以上 / 256MB 以上
画面解像度	1024×768pixel 以上	1024×768pixel 以上

また、1 月版の、インストール版につきましてはデータ面では**一般用医薬品データ**を収載、機能面では**院内採用医薬品集作成・編集・出力・取込機能**を搭載するなどさらに強化を行います。こちらもお購入をおねがいたします。

尚、JAPIC 医薬品集関連製品に関しては JAPIC ホームページ（<http://www.japic.or.jp>）でも随時公開していきますので、最新情報についてはそちらもご参照下さい。

《JAPIC 医薬品集関連製品のご購入・お問い合わせは》

事務局業務渉外担当 TEL.03-5466-1812 , FAX.03-5466-1814

(添付文書情報担当 TEL.03-5466-1825)

JAPIC 特別講演会開催のご案内

開催日時：平成 17 年 10 月 6 日(木) 13:00 - 16:30

会場：イイノホール(千代田区内幸町 2 - 1 - 1 03-3506-3521)

テーマ：患者のための最適医療の実現

1. 開催の趣旨：公益法人としての JAPIC 活動の一環として、会員機関の方々のほかに今回は対象を一般の方々にも広げ有益な講演会となるよう企画しました。統一テーマに基づいて各領域でご活躍の先生方に講演していただきます。
2. 定員：600 名
3. 参加費：無料
4. 申し込み方法：参加申込書(PDF ファイル)に必要事項をご記入の上、FAX でお申込み下さい。(JAPIC ホームページ <http://www.japic.or.jp> からダウンロードできます。)
5. 問い合わせ先：事務局 業務担当 (TEL:03-5466-1812)

プログラム

- 12:00 ~ 13:00 受付
- 13:00 ~ 13:10 主催者挨拶
- 13:10 ~ 14:00 ポストゲノム時代の医療
東京大学附属病院院長 永井 良三先生
- 14:00 ~ 15:20 患者のニーズ - あなたも私も、医療を変えるひとりです -
国際医療福祉大学教授 大熊 由紀子先生
・アラジーボット専務理事 栗山 真理子氏
・(社)日本てんかん協会 創薬ボランティア委員 奥田 幸平氏
・東京 SP 研究会代表 佐伯 晴子氏
- 15:20 ~ 15:30 休憩
- 15:30 ~ 16:20 患者中心の医療実現に向けての製薬業界の取り組み
日本製薬工業協会会長 青木 初夫先生
- 16:20 ~ 16:30 閉会の挨拶



「第123回 薬事研究会」開催のお知らせ（会員限定）

薬事研究会を下記により開催致しますので、貴社ご関係の方々にご連絡のうえ多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日 時：平成17年11月15日（火） 13:30～16:15

場 所：日本教育会館 一ツ橋ホール 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

講 演：（1）「最近の医薬品安全対策について」

厚生労働省医薬食品局安全対策課 担当官

（2）「最近の薬事監視指導行政について」

厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課 担当官

参加費：資料費及び会場費等として1名3,000円（当日会場でいただきます）

申込方法・期限：

申込書（PDFファイル）に必要事項をご記入の上、メール

（gyoumu@qb3.so-net.ne.jp）または Fax（03-5466-1814）にて11月8日（火）までにお申し込みください。

（PDFファイルは JAPIC ホームページ <http://www.japic.or.jp> からダウンロードできます。）

問 合 先：事務局業務担当（03-5466-1812）

JAPIC ユーザ会開催延期について

5月号（No.253）でお知らせいたしました第8回 JAPIC ユーザ会は都合により本年は開催しないことになりました。

当初11月24日（木）大阪、11月30日（水）東京、で開催予定でしたが、来年度5月に延期させていただきます。

今後もユーザの皆様のご意見を伺いながらサービスの改善に努めてまいりますので、お気づきの点がございましたら、お知らせいただきますようお願い申し上げます。

（事務局業務担当 TEL.03-5466-1812）



図書館だより No.184

◀新着資料案内 - 平成 17 年 8 月 5 日 ~ 平成 17 年 9 月 13 日受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ <http://www.japic.or.jp> でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
14705の化学商品 化学工業日報社 化学名、基準、別名、性状、用途、注意、毒性など簡潔に記載	化学工業日報社	2005年 1月	2,237p	¥34,650
British pharmacopoeia 2005 British Pharmacopoeia Commission イギリス薬局方(4分冊) イギリス動物用薬局方(1冊) これらとBANを含むCD-ROMセット	The Stationery Office	1999年	5分冊	
分子標的療法の基礎と臨床 今村雅寛 他編	篠原出版新社	2005年 4月	289p	¥5,250
治験に係る補償・賠償と個人情報保護法対応の実務 Q&A 辻 純一郎	じほう	2005年 8月	208p	¥2,940
GCPハンドブック-医薬品の臨床試験の実施の基準-第3版 上田慶二 編	じほう	2005年 7月	468p	¥3,885
ひと目でわかるMicrosoft Active Directory Yokota Lab, Inc.	日経BPソフトプレス	2005年 6月	256p	¥2,625
保険薬事典 平成17年8月版 - 薬効別薬価基準 薬業研究会 編	じほう	2005年 8月	772p	¥13,860
ICD-10 International statistical classification of diseases and related health problems 10th revision 2nd Edition World Health Organisation 国際疾病分類ICD-10(1994年)のメンテナンス版	WHO	2004年	3分冊	¥84,000
ICH原薬GMP Q&A集 FDAの考え方に沿ったQ7Aの実践 日本PDA製薬学会、原薬GMP委員会 編	じほう	2005年 7月	229p	¥4,200

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
医療用医薬品集 2006 日本医薬情報センター 旧名：「医療薬日本医薬品集」	日本医薬情報センター	2005年 9月	2分冊	¥14,700
医薬品・医療衛生用品価格表 [付録]メーカーリスト2005 平成17年度 薬事日報社	薬事日報社	2008年 8月	650p	¥9,660
医薬用語事典 第8版 日本医薬品卸連合会 編	じほう	2005年 8月	266p	¥2,520
改訂第2版 がんの痛みの鎮痛薬治療マニュアル すべてのがん患者の痛みからの解放のために 武田文和	金原出版	2005年 4月	136p	¥2,730
改訂GCP治験ハンドブック 野口隆志 編	薬事日報社	2005年 4月	427p	¥3,885
各科に役立つ救急処置・処方マニュアル 北村 諭	医歯薬出版	2005年 4月	673p	¥6,300
カラー図説よくわかる改正薬事法 新薬事法研究会 監修	薬事日報社	2005年 4月	187p	¥3,150
抗菌薬再評価結果対応 適応菌種・適応症検索システム 抗菌薬要覧25 日本製薬団体連合会再評価委員会 編	日本製薬団体連合会	2005年 7月	29p	
日本医薬品卸企業名簿 平成17年度版 日本医薬品卸業連合会	日本医薬品卸業連合会	2004年 6月	195p	非売品
日本化粧品成分表示名称事典 第2版 日本化粧品工業連合会 編	薬事日報社	2005年 6月	2分冊	¥18,900
OTC Directory 2005/2006 treatments for common ailments PAGB(Proprietary Association of Great Britian) イギリスのOTC医薬品集		2005年	180p	
レセプト・カルテ記載のためのICD-10対応 標準病名ハンドブック標準病名マスター ver.2.40 医療情報システム開発センター 編	社会保険研究所	2005年 7月	998p	¥7,875

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
臨床研究用語辞典 Simon Day著、佐久間 昭 編訳	サイエンティスト社	2005年 7月	379p	¥3,150
歯学研究者名鑑 2005年版 日本歯科医学会 監修	日本口腔保健協会	2005年 3月	732p	¥14,700
新版 これからの薬剤情報 - あつめ方、よみ方、つたえ方 折井孝男 編	中山書店	2005年 8月	422p	¥7,140
医薬品情報に携る約50名の執筆者による実践的な情報担当者必携本				
診療科医薬品集 救急治療・薬剤ハンドブック 山本保博 総合監修	じほう	2005年 3月	309p	¥3,150
Spezialitätenliste Bundesamt für Gesundheit	Bundesamt für Gesundheit	2005年 7月	377p	¥8,830
スイスの医薬品価格表				
Springer Universalwörterbuch Medizin, Pharmakologie und Zahnmedizin. Deutsch-Englisch/Englisch-Deutsch Peter Reuter	Springer(DEU)		2分冊	¥36,114

その他資料・寄贈等

1. 血液事業関係資料集 平成 16 年版 / 血液製剤調査機構 / 114p / 2005
2. 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集 平成 16 年度 / 長崎大学熱帯医学研究所 / 121p / 2005
3. 日本大衆薬工業協会創立 20 周年記念国際フォーラム 世界のセルフメディケーション政策 / 日本大衆薬工業協会 / 64p / 2005
4. 図書館調査研究レポート No.4 電子情報環境下における科学技術情報の蓄積・流通の在り方に関する調査研究 (平成 16 年度調査研究) / 国立国会図書館 / 118p / 2005
5. 図書館調査研究レポート No.5 図書館職員を対象とする研修の国内状況調査 / 国立国会図書館 / 116p / 2005



9月の情報提供一覧

- ・平成17年9月1日から9月30日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、
当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」9月号	9月30日
2. 「Regulations View」No.121	9月30日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1673～1676	毎週月曜日
4. 「JAPIC NEWS」No.258	9月30日
5. JAPIC「医療用医薬品集」2006（CD-ROM付）	9月1日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.501～505	毎週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.1055～1074	毎日
5. 「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.106～109	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日

データベース一覧	更新日
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	9月 1日
2. 学会演題情報	9月 1日
3. 添付文書情報	9月 8日 9月 22日
4. 規制措置情報	毎 日
5. 臨床試験情報	随 時
<JIP e-InfoStream から提供> メンテナンス状況は JIP ホームページ (https://e-infostream.com/) でもご覧いただけます。	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	9月 14日
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	9月 14日
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	9月 14日
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	9月 14日
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	9月 14日
6. 「NewPINS (添付文書情報)」(月 2 回更新)	9月 5日 9月 13日
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	9月 7日
<JST JOIS から提供>	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	9月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当 (TEL.03-5466-1812) を通じて許諾を得て下さい。

30年余の編集実績を結集しました!!



編集発行：(財)日本医薬情報センター (JAPIC)
発売：丸善出版事業部

圧倒的な情報量の1冊!

好評発売中!!

JAPIC 医療用医薬品集 2006 CD-ROM付

- ◆国内で使用される医療用医薬品添付文書情報を収録。
- ◆本書データを収録した便利なCD-ROM付。
- ◆更新情報(新薬・改訂)の提供(別売)

定価 14,700円(税込)(会員等の割引価格有り)

付録CD-ROMの機能強化版!

JAPIC 医療用医薬品集 CD-ROM インストール版



10月末発売!!

2005年10月版

- ◆2005年9月末までの医療用医薬品添付文書・薬価データを収録。
- ◆院内採用医薬品集作成補助機能(テキストデータ書き出し機能)を搭載。

毎年1月、4月、7月、10月に新データ版を発刊!

- ◆2006年1月版ではデータ更新と共に“一般用医薬品データ”も収録!
- ◆2006年1月版から簡易で高機能の“院内採用医薬品集”編集機能を搭載!

定価 各版 15,000円(税込)・CD-ROM年間4回分セット 25,000円(税込)

複数台使用の場合は使用許諾が必要です。価格については別途ご相談下さい。

==== 財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

(<http://www.japic.or.jp/>)

禁無断転載

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15

JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行

長井記念館 3階

2005.9.30 発行

TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814